

2026年度 東部部会第1回 研究報告会の開催報告

日本中小企業学会東部部会の2026年度第1回研究報告会が対面で開催され、活発な議論が展開されました。

- 日時：2026年1月25日（日） 13:30～16:00
- 参加人数：35名
- 開催場所：東洋大学（白山キャンパス）1号館1311教室（オンライン併用）
- 司会：岡田浩一（明治大学）

第1回研究報告会のテーマは「学際研究としての事業承継」であり、特に家族関係のあり方に重点を置きつつ、後継者のエンゲージメントとストレスについて議論を深めた。

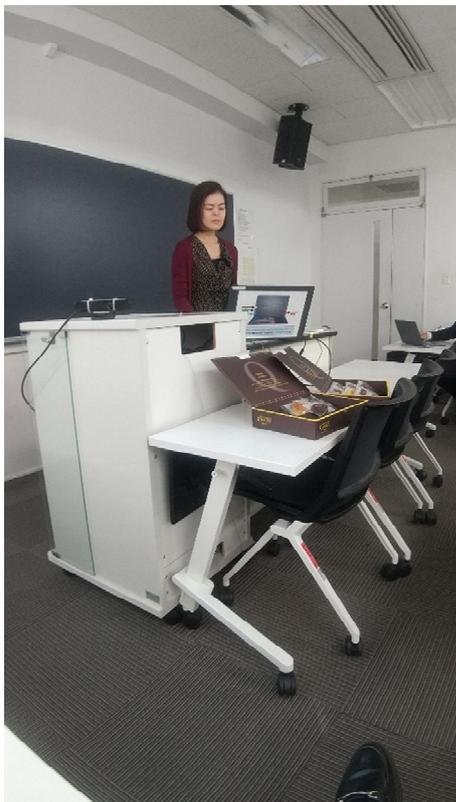
本報告会の冒頭、山本聡氏（東洋大学）から企画の趣旨が説明された。そのなかで、中小企業の事業承継に関して、①後継者のエンゲージメント、②後継者のエンゲージメントと家族関係、③男性後継者と女性後継者の差異、④後継者による事業承継経験の意味づけの探求、という四つのリサーチギャップが指摘された。同時に、この問題に対する学際的アプローチの必要性も示唆された。この問題提起を受けて2部構成での報告会が行われた。

第1部は、「中小企業の事業承継の学際的アプローチ」というタイトルの下、本学会非会員の研究者から2本の報告がなされた。尾崎由佳氏（東洋大学）による「創業者と後継者の比較：経験サンプリング調査から」では、経験サンプリング法を用いて収集したデータを用いて、中小企業経営者・従業員のバーンアウト関連感情と心理的離脱を左右する要因が報告された。そのなかで、ファミリービジネス創業者、ファミリービジネス承継経営者、非ファミリービジネス経営者の間で就業状態が心理に与える影響が異なることが報告された。また、高鶴裕介氏（東洋大学）・川口英夫（東洋大学）「中小企業経営者のストレスはどこから？—心拍数や脳機能計測から推測するストレス因子の解明を目指して—」では、ストレス耐性に関する実験（社会的ストレス負荷課題）の結果が報告された。この実験から得られた知見として、測定する指標によってストレス反応が異なることや、主観的、客観的反応が必ずしも一致しないことなどが報告された。これらを受けて、コメンテーター・鈴木正明氏（武蔵大学）からは従来の中小企業研究との接点に関して問題提起がされた。

第2部では、山本聡氏（東洋大学）の報告「事業承継者のエンゲージメントと家族関係」がなされた後、その事例報告として、長谷川薫氏（葵製作所 代表取締役）、槇野雄平氏（槇野産業 代表取締役）のお二人の事業承継者からご自身の承継のご経験についてお話を伺った。いずれもご家族との関係をはじめリアリティがあるお話を詳細にお伺いすることができた。これを受けて、コメンテーター・安田武彦氏（東洋大学）から、家族社会学の知見を生かすことが従来中小企業論として行われてきた事業承継研究を発展させるうえで有益ではないかとの見解が示された。

最後に、山田幸三氏（大妻女子大学）から経営学の観点から総括コメントがなされた。ファミリービジネスの事業承継にとっての地域コミュニティの重要性、中興の祖となる経営者と先代経営者の関係などが言及された。事業承継研究において、学際的な観点からの研究の必要性が議論され、中小企業論への示唆の多い研究報告会となった。

当日の様子の写真



尾崎教授



高鶴教授



鈴木教授



槇野氏



長谷川氏